

自然の博物館の建物と風景

飯田 徹

前号では当館の建物自体の魅力を紹介しました。今回は、博物館の建物と周囲の環境とが調和した、「風景」として見るポイントをいくつか、写真とともに紹介したいと思います。

1 落ち着いた清々しい空間を感じる

まずは、少し遠くから長瀬の豊かな自然と調和する博物館の存在感を体感してほしいと思います。

周囲に溶け込んだ博物館全体を眺め深く息を吸い込むと、穏やかな心持ちになれるはずです。



長いアプローチから入るのがお勧め

2 太陽が作り出す世界を鑑賞する

射し込む光と影が、夏は力強く、冬は柔らかくレンガ色のキャンバスを描きます。見方を変えれば、これも作品と呼べるのではないのでしょうか。



光の反射が不思議な模様を創り出す



カエデと彼岸花が色を添える

3 自分だけのアングルで切り取ってみる

少し違った角度から眺めてみると、何気なくみえていたものが印象を変え、特別な「景色」に見えるかもしれません。

自分だけのお気に入りの構図を探してみてもいいのではないでしょうか。



サメはこの景色を眺めながら何を考えているのかな…



会議室からの紅葉、得した気分（貸出もしています）



展示室ガラス越しにみた雪景色、山水画の世界

おわりに

木々や空の色、差し込む陽光など、季節や時間により様々に表情を変える自然の博物館。

耳をすませば、荒川の流れや野鳥のさえずりも聞こえてきます。

博物館を丸ごと楽しむ、そんな訪れ方はいかがでしょうか。

（いいだ とおる・館長）